

大軍拡に 自民党重鎮、俳優ら 異議

タモリさん「新しい戦前」と警鐘

岸田大軍拡、敵基地攻撃能力の保有に立場を超えて反対や危惧の声が広がっています。

「政策転換あり得ない」

河野洋平元自民党総裁・元衆院議長 安全保障政策の大転換について「70数年前に日本は決心したんじゃないか。…決してあの過ちは繰り返しませんと何十年も言い続けて、その結果がこの政策転換というのにはあり得ない」(7日放映のTBS系「報道特集」)

山崎拓元自民党副総裁 「増税で苦しむのは一般国民。目先の軍事的脅威に照準を合わせて、軍事大国になることは控えたほうがいい」「もっと外交をちゃんとする方が大事」(5日放映、「FNNプライムオンライン」)

古賀誠元自民党幹事長 敵基地攻撃能力保有について「完全に専守

防衛を逸脱してしまう」(東京新聞、昨年12月16日付)。



「敵基地攻撃能力、どんどん決めていく」「怖い」

女優・吉永小百合さん 「怖いのは、昨年末、サッカーのワールドカップ(W杯)で日本中が沸き返っていた時期に、敵基地攻撃能力や防衛費増額という大変な問題を、みんなで考えるんじゃなく、どんどん決めていこうとした動きです」(東京新聞1月1日付)

タレント・タモリさん 黒柳徹子さんとの対談番組で「来年はどんな年になるでしょう」と聞かれ、「新しい戦前になるんじゃないでしょうかね」(テレビ朝日系、昨年12月28日放映)

折り目

日米軍事同盟の侵略的大変質に断固抗議する

岸田首相はバイデン米大統領と会談。日米共同で敵基地攻撃を行うことに合意し、共同声明を発表しました。日本共産党の志位和夫委員長は14日、「日米軍事同盟の侵略的大変質に断固反対する」との談話を発表しました。



日米共同 声明について 志位委員長が談話

志位氏は、共同声明は「米軍の指揮統制のもと、自衛隊が敵基地攻撃能力を使って相手国に攻め込むことを、公然と宣言したものだ」と指摘しました。日米安保条約のもとでは、自衛隊が「盾」、米軍が「矛」の役割を担うとされてきましたが、これを一変させ、日米が一体に「矛」となっていたか、というものです。志位氏は、日米軍事同盟の侵略的大変質であり、断固反対を表明しました。

卑屈な米国追従

会談で岸田首相は、敵基地攻撃能力保有と大軍拡を決めたことを



岸田首相が敵基地攻撃兵器として購入を表明したトマホーク(米国防衛省VIDIS)

バイデン氏に報告しました。志位氏は、選挙で国民の信を問うこともせず、政策の大転換を真っ先に米国に報告したことは「卑屈きわる米国追従の極み」と批判。「専守防衛」をかなぐり捨て、「戦争国家づくり」の「閣議決定」撤回、東アジアに平和をつくる憲法9条を生かした外交戦略を訴えました。

日本共産党

しんぶん 赤旗

日刊 (毎日配達されます) 月3,497円

日曜版 (毎週配達されます) 月930円

お申し込みはお近くの党事務所か 党員までお願いします

近畿民報

2023年1月 No.4 (第533号) 発行/日本共産党国会議員団 近畿ブロック事務所

〒537-0025 大阪市東成区中道1-10-10ホクシンビース102号 Tel.06(6975)9111 Fax.06(6975)9115 Eメール:jcpkinki@cronos.ocn.ne.jp

※日本共産党は以上の見解を発表しました。